

みなさんのエコ活動を応援します！

エコパークさがみはら

エコパークさがみはらには自由研究や調べ学習に役立つ本がたくさんあります。ぜひご利用ください。

※エコパークさがみはらの図書は1人2冊、2週間まで借りることができます（一部を除く）。

虫の飼いかた・観察のしかた②
虫を採る・虫を飼う
標本をつくる [備成社]



みつけた昆虫の観察や採集のしかた、上手な飼いかたの基本、標本のつくりかたなどを、写真をまじえてわかりやすく解説

すぐ調べられる「環境と生き物」③
川や池の生物編
メダカがすめるのはどんな川? [学習研究社]



身近な水辺にどんな生き物がいるか調べましょう。生き物を調べることで水の汚れ具合を知ることができます。

小学生の自由研究
エコ・クッキングで地球を救え!



毎日の生活の中の「買い物」「料理」「片付け」で取り組めるエコにはどんなものがあるでしょうか? たくさんみつめて、習慣にしていきましょう。

すぐできる環境調査の調査の基本とまどめかた [学習研究社]



研究の進め方、まとめ方に困ってしまったことはありませんか? この本では調べる方法からまどめ、発表までのヒントがたくさんあります。これを読めば自由研究も怖くない!

そだててあそぼう [36]
土の絵本①
土とあそぼう [農山漁村文化協会]



いつも身近にある土ですが、グラウンド、畑、山、それぞれにちがった性質や役割をもっています。土にふれ、遊びながら土の世界をのぞいてみましょう。

天気の本
天気の本 [永岡書店]



天気のしくみを実験をとおして学んでみましょう。研究のまとめ方についても解説しています。

ほかにもたくさんの本がありますよ!

エコパークさがみはら NEWS 夏号

令和4年7月1日発行 発行：エコパークさがみはら 指定管理者 三菱電機ライフサービス株式会社

知って、備える、蚊のはなし



蚊はなんでさすの?

蚊にさされるとかゆいですね。なぜ蚊は人をさすのでしょうか?

こたえは、血を栄養にして卵を作りたいからです。

じつは、蚊はふだんの食事として血を吸っているわけではありません。

ふだんは花のみつや樹液、果汁をエサにしています。血は卵を産むための栄養なので、人をさすのはメスの蚊だけです。

吸っている途中でみつかりにくいように、蚊の唾液にはまづいの成分がふくまれています。その成分が時間がたつとかゆみを引き起こすのです。

このNEWSでは、きらわれ者の蚊にスポットライトをあてて、くわしくご紹介いたします!



環境のちよこつと話

除虫菊と蚊取り線香について

今回の特集の蚊といえば、夏の風物である豚の蚊取り器に入った蚊取り線香の原料となる通称除虫菊(シロバナシヨケギク)は原産地が地中海沿岸でセルビアにて発見され、日本への渡来は明治時代であったことはご存知でしたか。当初は鑑賞用でしたが、和歌山県の上山英一郎氏(金鳥―大日本除虫菊株式会社創業者)がシロバナシヨケギクに殺虫成分のピレトリンが含まれることを知り、栽培と殺虫剤としての製品化に努めたことが、明治23年世界初の蚊取り線香発明へと繋がりました。発売当時の形状は棒状でしたが、燃焼の長時間化と安全の為に渦巻き型の形状になったのは明治35年です。ちなみにピレトリンは犬・猫などに毒性は低く、昆虫類には即効性の殺虫力があり、抵抗性もつきにくいとされています。

上山英一郎氏が取り組んだ蚊取り線香の製品化は、2013年に国立科学博物館の「重要科学技術資料(愛称:未来技術遺産)」として登録されているほか、日本化学会の「科学遺産」にも2017年に認定されています。



エコパークさがみはら

(相模原市立環境情報センター)

〒252-0236
相模原市中央区富士見 1丁目3番41号
TEL.042-769-9248 FAX.042-751-2036

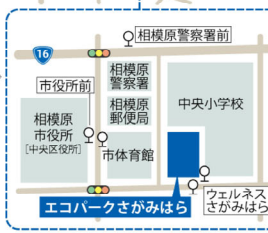
- Eメール ecopark-sagamihara@mdlife.co.jp
- ホームページ <http://www.ecopark-sagamihara.com/>
- 開所時間 午前9時~午後5時
- 休所日 毎週木曜日、年末年始、施設点検日



交通

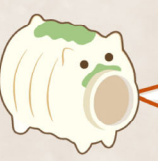
- JR相模原駅から
 - ① 徒歩約20分
 - ② バス「市役所前」下車徒歩2分「ウエルネスさがみはら前」下車すぐ
- JR上野駅から
 - ① バス「市役所前」下車徒歩2分
- 車でお越しの方
エコパークさがみはら及び周辺の市役所駐車場をご利用ください(2時間までの駐車は無料)

なるべく公共の交通機関をご利用ください。



いかがでしたか? 他にもいろいろなテーマのNEWSがありますので、ぜひお立ち寄りください。

この印刷物の紙は、環境に配慮した再生紙を使用しています



蚊 ニッポン代表のみなさんにインタビュー！

蚊とはハエ目科に属する昆虫で日本だけでも112種の種類があります。世界では約3600種が記録されています。日本でよく出会う代表的な3種類の蚊に、お話をきいてみましょう。

ヤブカチーム出身
ヒトスジシマカ



イエカチーム出身
コガタアカイエカ



じまん

長く飛べる！
私は旅が好きなの。長距離を飛ぶことだってできるのよ。東シナ海を渡ってくることもできるんだから。

ハマダラカチーム出身
シナハマダラカ



じまん

きれいな夜型タイプ。
子どもの頃は清流で遊び、大人になると夜遊びが大好きになるの。牛とか豚みたいな家畜や、人にもしのびよってさしてやるのよ。

じまん

水がなくても、へっちゃら！

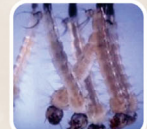
オレはタフだから卵時代は乾燥しても1か月くらいは余裕で生きていられるんだ。この特技をいかして先輩たちは日本からヨーロッパやアメリカにも進出した。その後、アメリカから貿易を通して世界中に運ばれ、南極以外の4大陸を制覇してしまったんだ。いまじゃ世界中にオレたちのなかまがいるってことさ。

蚊の一生

蚊をよく見てみたことはありますか？ どんなすがたをしているのでしょうか？ どんなふうに成長するのでしょうか？

水たまりや植木鉢の受け皿などに、長さ1mmほどの卵をばらばらに産む。水につかると数日で幼虫になる。

卵 → 幼虫



おなかの先を水面につけて呼吸するため、頭を下にしてふらふらしている。幼虫の間に3回脱皮してぐんぐん大きくなる。1〜2週間で、4回目の脱皮をしてさなぎになる。

卵を産むいい所みつけたよ

ヒトスジシマカの一生

メスは羽化して5日ほどで卵をつくれるようになる。卵の栄養のためにメスは血を吸い、3日かけて体の中で卵を育てる。産卵するとまた吸血して、1回に100〜300個の卵を死ぬまでに3〜4回産むことができる。



成虫 ← さなぎ

水面の近くでびよんびよん動く。口がなく、食事はしない。1〜2日で白っぽい色が黒く変化して、背中がぱっくり割れて羽化する。



羽音を聞き分けて恋の相手をつつけるよ。触角がふさふさしている方がオスなんだ。

2本の角がはえてるみたいに見えるからオニボウフラって呼ばれることもあるんだ



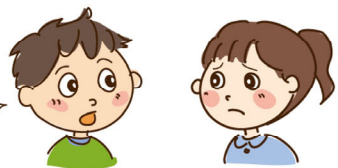
病気を運ぶ蚊

蚊は、人や動物の病気を運んでひろめる原因になることがあります。蚊が病気をもらった動物や人から血を吸うとき、病原体(寄生虫やウイルス)が蚊の体の中に入ります。そのあとにその蚊が別の動物や人の血を吸うときに病原体もうつり、ひろがっていきます。

蚊がはこぶ人の病気

病気のなまえ	病気を運ぶ蚊の種類	おもな地域
マラリア	シナハマダラカなど	アジア、オセアニア、アフリカ、中南米など
日本脳炎	コガタアカイエカ	日本、東アジアから南アジア、オセアニア
デング熱	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど	東南アジアから南アジア、中南米、カリブ海の島々、アフリカ
西ナイル熱	アカイエカ、チカイエカ、ヒトスジシマカなど	アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジア、アメリカ合衆国など
チクングニア熱	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど	アフリカ、南アジアから東南アジア

ほくたちが小さいとき、都内でもデング熱がはやって大さわぎになったんだって！

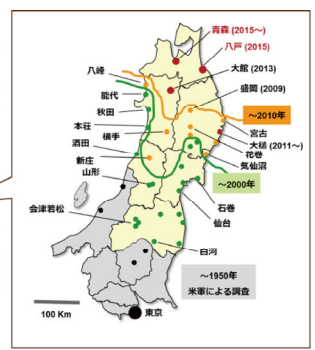


世界では毎年とても多くの子どもがマラリアで亡くなっているみたい。

地球温暖化と蚊のかかわり

海外の蚊が日本にやってくる？！

成田空港のほか複数の国際空港でほぼ毎年ネッタイシマカが見つっています。いまのところ屋外で冬を越したという確認はされていませんが、このまま温暖化が進むと国内で定着してしまうかもしれません。



蚊は北上している！

日本国内でも、これまで寒い地方にはいなかったヒトスジシマカでしたが、最近では東北でも普通に生息が確認されるようになってきました。このまま温暖化がすすむともっと寒いところにも広がっていくと予測されています。

蚊は世の中に必要なの？

じつは、悪さをする蚊はほんの一部です。ほかの昆虫や、魚、鳥などのエサになったり、植物の花粉を運ぶなど、自然の中で蚊が果たす役割もあります。蚊を絶めつさせることは不可能です。蚊もふくめて、多種多様な生き方をしている生き物たちのことを正しく知って、同じ地球の仲間として生きていきましょう。

虫よけをしようずに使おう！



Q 衛生研究所は、どんなことを行っている施設ですか？

A 市民のみなさんが健康で暮らせるように、食べ物の安全性を調べたり、どのような風邪がはまっているかについて調べています。最近では新型コロナウイルス感染症の検査・研究をしています。

Q どうして蚊の調査が必要なのですか？

A 虫や動物は人にうつる病気をもっていることがあります。歴史的に世界で1番人間を殺した生き物は、蚊です。平成26年に国内で感染のあったデング熱は、人が蚊にさされてうつる病気のため、蚊の調査をしました。

Q 蚊の調査では、どんな調査を行いましたか？

A 調査は平成27年から令和3年まで蚊の発生しやすい夏季に行い、公園で人に集まってくる蚊を虫取り網でつかまえ、市内に生息する蚊が病気の原因になるウイルスをもっているかを調べました。その結果、人にうつる病気の原因を持っている蚊は見つかりませんでした。

Q 蚊の発生を防ぐために

A デング熱をうつすヒトスジシマカの幼虫は、植木鉢の受け皿や空き缶などにたまった水に発生し、羽化して成虫になります。草むらや風通しの悪いやぶなどに成虫の蚊がひそんで、通りかかった人や動物の血を吸います。水がたまる物の処分をしたり、草かりをして蚊のひそむ場所をなくしましょう。

Q 小学生のみなさんに伝えたいこと

A 蚊にさせないために、蚊のいそうな草むらに近づくときや山に遊びに行く時は、虫よけ剤を使ったり、長そで長ズボンを着て肌をかくしましょう。



エコパークさがみはらの図書コーナーにあります。



- 「あなたは嫌いかもしれないけど、とってもおもしろい蚊の話」三條場千寿・比嘉由紀子、沢辺京子著(株)山と溪谷社刊
- 「科学のアルバム・かがやくいのち カ ヤブカの一生」高嶋清明著・写真、岡島秀治監修(株)あかね書房刊